

## 【要旨】

メタ言語的条件文とは、条件節は主節で使用されている語や発音の仕方についてコメントをしている条件文で、メタメタファー的条件文とは、条件節と主節にメタファー表現が使用されている条件文である。

本研究では、メタ言語条件文とメタメタファー的条件文の if 節は互いに異なった機能をしていることを明らかにし、一連の統語テストを通して、メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文における if 節のカテゴリー・ステイタスは互いに異なっているということが論証される。

## 1. はじめに

## 本研究の目的

本研究では、メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文を比較検討することにより、両者の if 節の機能が互いに異なっているということを明らかにし、両者の if 節のカテゴリー・ステイタスは互いに異なっているということを論証する。

## 本研究の主張

メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文の if 節は互いに異なった機能をし、メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文における if 節のカテゴリー・ステイタスは互いに異なっている。

## 2. メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文

## 2.1. メタ言語的条件文 (metalinguistic conditionals)

● (1) - (9) のような例はメタ言語的条件文と呼ばれている (Quirk et al (1985), Sweetser (1990), Declerck and Reed (2001), Dancygier and Sweetser (2005); cf. Horn (1985, 1989), Athanasiadou and Dirven (2000))。

● Declerck and Reed (2001: 253) によると、メタ言語的条件文は、q における語の選択 (e.g. (1) - (7)) や q における発音の仕方 (e.g. (8) - (9)) についてコメントするものである。

- (1) His style is florid, **if that's the right word.** (Quirk et al. 1985: 1096)
- (2) He trapped two mongeese, **if "mongeese" is the right form.** (Dancygier 1998: 104)
- (3) He trapped two mongeese, **if that's how you make a plural of "mongoose."**  
(Dancygier 1998: 104)
- (4) Grandma is feeling lousy, **if I may put it that way.** (Dancygier 1998: 104)

- (5) Grandma is feeling lousy, **if that's an appropriate expression**. (Dancygier 1998: 104, 105)
- (6) My husband, **if I can still him that**, hates onion soup. (Dancygier 1998: 106)
- (7) The story, **if so it may be termed**, is weak and loose. (Declerck and Reed 2001: 354)
- (8) She values her “privesi,” **if that's the correct way of pronouncing the word**.  
(Declerck and Reed 2001: 353)
- (9) OK, I'll have a tomahto, **if that's how you pronounce it**. (Sweetser 1990: 140)

○ Dancygier (1998) はメタテキスト的条件文 (metatextual conditionals) と呼んでいるが、本研究は伝統に従いメタ言語的条件文と呼ぶ。

○ 先行研究によっては、以下の (10) のような例をメタ言語的条件文と呼んでいるものもあるが (see Elder (2019))、本研究は (1) - (9) に見られる条件文をメタ言語的条件文と呼ぶこととする。

- (10) If you are hungry right now, there are biscuits on the sideboard. (Elder 2019: 75)  
→ biscuit conditional (Siegel (2006))、relevance conditional (Declerck and Reed (2001) と Bhatt and Pancheva (2006))、pragmatic conditional (Wierzbicka (1997)) と呼ばれる

※以下の例 (A) の第二 if 節 (= if that's an appropriate expression) はメタ言語的条件節であるが、この if 節は、主節ではなく第一 if 節内における語 (so lousy) の選択についてコメントしている。

- (A) I'd love to go **if I didn't feel so lousy, if that's an appropriate expression**.  
(Dancygier 1998: 105)

## 2.2. メタメタファー的条件文 (meta-metaphorical conditionals)

● Sweetser (1996) と Dancygier and Sweetser (2005) は (11) - (14) のような例をメタメタファー的条件文と呼んでいる。

- (11) If the Île de la Cité is the heart of Paris, the Seine is the aorta. (Sweetser 1996: 221)
- (12) If Moriarty is the Napoleon of crime, then Holmes is a civilian Wellington.  
(Sweetser 1996: 221)
- (13) If the beautiful Golden Gate is the thoroughbred of bridges, the Bay Bridge is the workhorse.  
(Dancygier and Sweetser 2005: 132)
- (14) If public transit is the lifeblood of a dynamic city, Vancouver's in a coma.  
(Dancygier and Sweetser 2005: 134)

● メタメタファー的条件文とは p と q にメタファー表現が使用されている条件文 (If p, (then) q) であると言える (メタファーについては Lakoff and Johnson (1980, 1999), Lakoff (1987, 1990, 1993), Taylor (2002, 2003), Gibbs (2017), Evans (2019) を参照)。

- 例えば、(11) の例においては、PARIS IS A HUMAN BODY というメタファーが働いている。
- (12) について、Sweetser (1996: 223) は “if we map Moriarty onto Napoleon (here taken to be a prototype of the powerful, brilliant, and evil empire-building military leader), then we should also map Holmes, Moriarty’s lifelong opponent, onto Wellington (another great military leader who devoted much of his life to the frustration and eventual defeat of Napoleon’s imperialistic expansion).” と述べている。つまり、Moriarty を Napoleon に写像するなら、Holmes は Wellington に写像されている、ということである。

### 3. 言語的証拠・言語事実

本節では、メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文が互いに異なったカテゴリーであることを示す言語事実を示す。

(i) メタメタファー的条件文は仮定法で使用することができるが、メタ言語的的条件文は仮定法にすることができない：

以下の (15) と (16) は仮定法のメタメタファー的条件文である。一方、(17) (= (5)) はメタ言語的的条件文で、(18) はその仮定法形式に対応する文であるが、Dancygier (1998) は、(18) を容認していない。

(15) If Paris **were** a person, the Seine **would be** its aorta. (作例)

(16) If the Golden Gate Bridge **were** a thoroughbred, the Bay Bridge **would be** a workhorse.

(Dancygier and Sweetser 2005: 134)

(17) Grandma is feeling lousy, if that’s an appropriate expression. (= (5))

(18) ? Grandma **would be** feeling lousy if that **were** an appropriate expression.

(Dancygier 1998: 105)

(ii) メタメタファー的条件文では、条件節 - 主節という順序でなければならないが、メタ言語的的条件文では、条件節 - 主節という順序は一般に認められない：

(19) - (20) は主節 - 条件節という順序のメタメタファー的条件文である。この順序のメタメタファー的条件文は容認されない ((11) - (14) と (19) - (20) を比較参照していただきたい)。

(19) ? The Seine is the aorta, if the Île de la Cité is the heart of Paris. (作例)

(20) ? Vancouver’s in a coma, if public transit is the lifeblood of a dynamic city. (作例)

一方、メタ言語的的条件文は、Dancygier (1998: 106) が言うように、典型的には主節 - 条件節という順序で使用され ((1) - (5) と (8) - (9) の例を参照)、条件節 - 主節という順序は通常は容認されない ((1) - (5) と (8) - (9) を以下に再掲する)。

(21) His style is florid, **if that’s the right word**. (= (1))

(22) He trapped two mongeese, **if “mongeese” is the right form**. (= (2))

- (23) He trapped two mongeese, **if that's how you make a plural of "mongoose."** (= (3))
- (24) Grandma is feeling lousy, **if I may put it that way.** (= (4))
- (25) Grandma is feeling lousy, **if that's an appropriate expression.** (= (5))
- (26) She values her "privesi," **if that's the correct way of pronouncing the word.** (= (8))
- (27) OK, I'll have a tomahto, **if that's how you pronounce it.** (= (9))

注意：

(6) - (7) (以下に (28) - (29) として再掲) では、メタ言語的条件節は主節中に挿入されており、主節 - 条件節という順序にはなっていないが、条件節 - 主節という順序でもない。

- (28) My husband, **if I can still him that,** hates onion soup. (= (6))
- (29) The story, **if so it may be termed,** is weak and loose. (= (7))

(iii) メタ言語的条件文の if 節はポライトネスとして機能しているが、メタメタファー的条件文の if 節はポライトネス表現ではない：

(1) - (9) の if 節はポライトネス表現である。Leech (1983) の Politeness Principle における気配りの原則 (Tact Maxim) が働いているため、(1) - (9) では、if 節がない主節だけの文よりも if 節があった方が聞き手に対する負担が軽くなるので、if 節が使われていると言える (cf. Athanasiadou and Dirven (2000))。一方、メタメタファー的条件文 (e.g. (11) - (14)) の if 節はポライトネス表現ではないと言える。

(iv) メタ言語的条件文の if 節は Heine と Kaltenböck らの枠組みにおける挿入辞 (theticals) として働くことができるが、メタメタファー的条件文の if 節は挿入辞として働かない：

Heine と Kaltenböck らの枠組みでは (Kaltenböck et al. (2011), Heine (2013), Heine et al. (2013, 2016), Kaltenböck and Heine (2014))、(30) と (31) のような if 節は挿入辞とされている。

- (30) Very short skirt on **if you don't mind me saying.** (Kaltenböck et al. 2011: 866)
- (31) Jim Bob and Fruitbat jokingly suggested that it might be vaguely amusing to tie in the, **if you will,** "concept" of the album with a foreign press conference to promote it  
(Heine et al. 2016: 57)

メタ言語的条件文の if 節は、(32) と (33) に見られるように、挿入辞として機能できる。一方、メタメタファー的条件文の if 節は、挿入辞として働かない ((19) と (20) の例を参照)。

- (32) My husband, **if I can still him that,** hates onion soup. (= (6))
- (33) The story, **if so it may be termed,** is weak and loose. (= (7))

Heine と Kaltenböck らは、挿入辞は話し手 - 聞き手間の相互作用 (speaker-hearer interaction) と

いう要素と関わっていると述べている。確かに、メタ言語的条件文の if 節は話し手 - 聞き手間の相互作用と関わっているが、メタメタファー的条件文の if 節は、メタ言語的條件節ほどは話し手 - 聞き手間の相互作用と関わっていないと言える。

※Heine と Kaltenböck らの枠組みでは、if you like, if I may, if you don't mind といった慣用表現と化した if 節だけでなく、Greenbaum (1969), Quirk et al. (1985), Biber et al. (1999) においてスタイル離接詞/スタイル副詞類と呼ばれる語(句)も挿入辞とされている。

(v) メタ言語的条件文では if 節を削除しても、文が伝えたい情報は保たれるが、メタメタファー的条件文では、if 節を削除すると、文が伝える情報は著しく損なわれることがある：

例えば、メタ言語的条件文である (1) - (9) において、if 節を削除しても、His style is “florid.” / He trapped two “mongeese.” / Grandma is feeling “lousy.” / My husband hates onion soup. / The story is weak and loose. / She values her “privesi.” / I'll have a “tomahto.” となり、(1) - (9) が伝えようとする情報は保たれる ((1)-(9) を以下に再掲する)。

- (34) His style is florid, **if that's the right word.** (= (1))
- (35) He trapped two mongeese, **if “mongeese” is the right form.** (= (2))
- (36) He trapped two mongeese, **if that's how you make a plural of “mongoose.”** (= (3))
- (37) Grandma is feeling lousy, **if I may put it that way.** (= (4))
- (38) Grandma is feeling lousy, **if that's an appropriate expression.** (= (5))
- (39) My husband, **if I can still him that,** hates onion soup. (= (6))
- (40) The story, **if so it may be termed,** is weak and loose. (= (7))
- (41) She values her “privesi,” **if that's the correct way of pronouncing the word.** (= (8))
- (42) OK, I'll have a tomahto, **if that's how you pronounce it.** (= (9))

しかし、メタメタファー的条件文において、if 節を削除すると、元々の条件文が伝えようとする情報は著しく損なわれる。それこそ、(44) と (45) の例においては、if 節を削除すると、元々の条件文が伝えようとする情報が著しく損なわれるどころか、解釈不能になりさえする。

- (43) If the Île de la Cité is the heart of Paris, the Seine is the aorta. (= (11))
- (44) If Moriarty is the Napoleon of crime, then Holmes is a civilian Wellington. (= (12))
- (45) If the beautiful Golden Gate is the thoroughbred of bridges, the Bay Bridge is the workhorse. (= (13))
- (46) If public transit is the lifeblood of a dynamic city, Vancouver's in a coma. (= (14))

(vi) メタメタファー的条件文は If I may say so のようなスタイル離接詞/スタイル副詞類として機能する if 節と共起できる：

以下の (47) - (49) に示されているように、メタメタファー的条件文は If I may say so や If you don't

mind my saying so のようなスタイル離接詞/スタイル副詞類として働く if 節と共起できる (cf. Greenbaum (1969), Quirk et al. (1985), Biber et al. (1999))。

(47) **If I may say so, if the Île de la Cité is the heart of Paris**, the Seine is the aorta. (作例)

(48) **If I may say so, if Moriarty is the Napoleon of crime**, then Holmes is a civilian Wellington. (作例)

(49) **If you don't mind my saying so, if public transit is the lifeblood of a dynamic city**, Vancouver's in a coma. (作例)

#### 4. メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文の if 節のカテゴリー・ステイタス

● 前節の (i) - (vi) から、メタ言語的 conditionals の if 節とメタメタファー的条件文の if 節は異なった機能をし、両者の if 節のカテゴリー・ステイタスは互いに異なっていると言える。

● メタ言語的 conditionals の if 節 — ポライトネス機能 (see 第 3 節 (iii))

● メタメタファー的条件文の if 節 — 主節を発話するための動機づけ (the speaker's motivation for uttering the main clause) として機能 (see Declerck (1984) と Haegeman (1984))

#### 5. まとめ

● 本研究では、一連の統語テストを通して、メタ言語的 conditionals の if 節とメタメタファー的条件文の if 節のカテゴリー・ステイタスは互いに異なっているということを論証した。

● メタ言語的 conditionals の if 節とメタメタファー的条件文の if 節は異なった機能をしている。

・ メタ言語的 conditionals の if 節 — ポライトネス機能

・ メタメタファー的条件文の if 節 — 主節を発話するための動機づけとして機能

#### 参考文献

Athanasidou, Angeliki and René Dirven (2000) "Pragmatic conditionals" In: Ad Foolen and Frederike van der Leek (eds.), *Constructions in Cognitive Linguistics*, 1-26. Amsterdam: John Benjamins.

Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad, and Edward Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.

Dancygier, Barbara (1998) *Conditionals and Prediction: Time, Knowledge, and Causation in Conditional Constructions*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dancygier, Barbara and Eve Sweetser (2005) *Mental Spaces in Grammar: Conditional Constructions*. Cambridge: Cambridge University Press.

Declerck, Renaat. 1984. " 'Pure Future' Will in If-clauses" *Lingua* 63, 279-312.

Declerck, Renaat and Susan Reed (2001) *Conditionals: A Comprehensive Empirical Analysis*. Berlin:

Mouton de Gruyter.

- Elder, Chi-Hé (2019) *Context, Cognition and Conditionals*. Cham: Palgrave Macmillan.
- Evans, Vyvyan (2019) *Cognitive Linguistics* (2nd ed.). Edinburgh University Press.
- Gibbs, Raymond (2017) *Metaphor Wars*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Greenbaum, Sidney (1969) *Studies in English Adverbial Usage*. London: Longman.
- Haegeman, Liliane. 1984. "Pragmatic conditionals in English" *Folia Linguistica* 18(3/4), 485-502.
- Heine, Bernd (2013) "On discourse markers: Grammaticalization, pragmaticalization, or something else?" *Linguistics* 51, 1205-1247.
- Heine, Bernd, Gunther Kaltenböck, and Tania Kuteva (2016) "On insubordination and cooptation" In: Nicholas Evans and Honoré Watanabe (eds.), *Insubordination*, 39-63. Amsterdam: John Benjamins.
- Heine, Bernd, Gunther Kaltenböck, Tania Kuteva, and Haiping Long (2013) "An outline of discourse grammar" In: Shannon T. Bischoff and Carmen Jany (eds.), *Functional Approaches to Language*, 155-206. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Kaltenböck, Gunther and Bernd Heine (2014) "Sentence grammar vs. thetical grammar: Two competing domains" In: Brian MacWhinney, Andrej Malchukov, and Edith Moravcsik (eds.), *Competing Motivations in Grammar and Usage*, 348-363. Oxford: Oxford University Press.
- Kaltenböck, Gunther, Bernd Heine, and Tania Kuteva (2011) "On thetical grammar" *Studies in Language* 35 (4), 852-897.
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Lakoff, George (1990) "The invariance hypothesis: Is abstract reason based on image-schema?" *Cognitive Linguistics* 1, 39-74.
- Lakoff, George (1993) "The contemporary theory of metaphor" In: Andrew Ortony (ed.), *Metaphor and Thought* (2nd edition), 202-251. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson (1980) *Metaphor We Live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson (1999) *Philosophy in the Flesh: The Embodied Mind and Its Challenge to Western Thought*. New York: Basic Books.
- Leech, Geoffrey N. (1983) *Principles of Pragmatics*. London: Longman.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Sweetser, Eve (1990) *From Etymology to Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Sweetser, Eve (1996) "Reasoning, mapping, and meta-metaphorical conditionals" In Masayoshi Shibatani and Sandra A. Thompson (eds.), *Grammatical Constructions*, 221-234. New York: Oxford University Press.
- Taylor, John R. (2002) *Cognitive Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Taylor, John R. (2003) *Linguistic Categorization* (3rd ed.). Oxford: Oxford University Press.